



## 東北高校 文理コース 校外研修 @ 遠野 実施レポート



宮城県仙台市の私立・東北高校の普通科「文理コース」は、社会解決のアイデアを実践に移すためのプロセスを学び、アントレプレナーシップを育成することを目指し、毎年 1年生が校外研修を行っています。修学旅行の延長ではなく、生徒が「自ら考え、学ぶ」実践の場として、2019年から岩手県遠野市で開催されています。

### 2021年の研修テーマは「SDGs」

“社会を構成する個人と企業と地域を知り  
持続可能な地域の在り方を探求しよう”

遠野市の企業の活動が、SDGsの観点でどのように地域や社会と繋がっているかを調べ、事業をSDGs目標とマッピング。さらに他社事例の調査やフィールドワークを通して、企業が取り組むことができそうなSDGsの取組の提案を行いました。最後に企業にSDGsレポートを提出しました。

協力企業：岩手アパレル、遠野食肉センター、トーノ精密、富川屋



Step 1

事前リサーチ

Step 2

企業へオンラインヒアリング

Step 3

仙台市内の事例調査

Step 4

提案書づくり

Step 5

遠野フィールドワーク

Step 6

プレゼン練習

Step 7

企業訪問・プレゼン

Step 8

レポート作成・まとめ

## 現場を見て自ら主体的に考え、行動する。

SDGsの考え方が素直に受け止められる今の高校生たち。しかしSDGsはまだ地域に十分浸透していません。実際の社会とのギャップを発見して、彼らならではの視点で捉え、新たな提案をしてくれることを期待しプログラムをつくりました。チームの仲間と議論し、合意形成をしながらプレゼンをつくっていくことにも取り組んでもらいました。

研修プログラム企画・講師：富川岳（富川屋）・多田陽香（NCL遠野）  
運営サポート：田仲美季（地域おこし協力隊/富川屋）



## <生徒達の声>

“もっと楽で楽しいものだと思っていましたがレポートや企業さんのこと、色々難しくとても頭が働きました。一時はみんなで悩みましたが、話し合い、役割を決め男女ともなく協力することができました。”

“自分らが納得するような発表をすることもしなきゃいけないけど、それより相手に伝えて自分らが何を知って欲しいのかを分かりやすく完結に話すことが大切だったことがわかった。”

“今回の研修を通して気づいたことは、相手に分かりやすく伝えることの難しさです。自分の考えを正しく理解してもらうためには、話す構成や話し方、伝え方など、様々なことを工夫することが大切だと思いました。自分がこのプレゼンをされる側だったら内容をどのように捉えるのかなど、相手の気持ちになって考えてみることも大切だと思いました。”

“自分たちのプレゼンがまだ少し甘かったと感じました。富川屋さんからフィードバックを頂いて、そこからスライドだったり原稿だったり色々対応出来たのはすごく良かったと思います。プレゼンを考えるのに頭がいっぱいになりましたが、その分とても学ぶことができました。次発表する時はなにより「相手に伝える」というのを心がけていきたいです。”

“活動を通して、プレゼン仕方やスライドのみやすい作り方を学び、総合型推薦で使う面接に役立つ研修になったと思います。次回このような場面があるならば、積極的に自分の意見を言えるようにしたいです。”

## 協力企業より

SDGsの取り組みをおこなってはいましたが、正式に宣言できてはいませんでした。今回のレポートを通してどんな項目が当社の取り組みに当たるのか学ぶことができました。今後レポートを活用してスタッフにもSDGsを学んでもらいたいと思いました。

## <問合せ先>

(株)富川屋 info@tomikawaya.com



## 企業に提出したレポート

**当手アパレルのSDGsに関する取り組み**

**衣服の製造を通して社会貢献をする岩手アパレル**

- 生地の無駄を減らすことで、環境改善に貢献  
余ってしまった生地は焼却処分してしまう事例が多いため、注文されたものを注文された分だけ生産しています。無駄なく生地を使うため、マーキング技術の向上に努めています。作る工程でも工夫することにより、環境改善につながるような取り組みは11番「住み続けられるまちづくりを」12番「つくる責任 つかう責任」にあてはまります。
- 託児所の設置、万歩計配布で社員の健康と福祉に配慮  
社員全員に万歩計を配布しているため、機械にかざすと体脂肪率などもわかるようになっており社員全員の健康管理をしています。また、無料託児所設置により、お子さんがいる社員も安心して働くことができる環境を作っています。これらはSDGsの3番「すべての人に健康と福祉を」にあてはまります。
- ジェンダーを意識した洋服作り  
現在は男子学生服や紳士ズボンを中心に衣服を作成していますが、これからは学生服で女子のズボンを作成しており、全国の学校から注文を多数受けることが考えられます。これは5番「ジェンダー平等を実現しよう」にあてはまります。
- 常に高品質で正確な衣服を作るために社員の教育が充実  
岩手アパレルは紳士服製造技能士2級の資格取得のための費用負担と技術指導に力を入れています。また、2級の資格を取得することによりロボットを使用せず人の手で感覚で衣服を作成することができるため、製品の品質が常に良いのです。この取り組みは4番「質の高い教育をみんなに」12番「つくる責任 つかう責任」にあてはまります。

～私たちが調査・企業訪問し作成しました～

社長さんの人柄がとても良く、SDGsについても前向きに考えてくださって、私たち自身もよい経験させてくださいました。

年次別に音声を流すことにより、聴覚障害や作業効率の向上に向けて会社側も努力しているのがとても良いと思いました。

東北高校文理1年2組  
遠藤、菅野、菊川、高橋愛利花、高橋美羽、七海、古山、常時

## 衣服の製造を通して社会貢献をする岩手アパレル

### ■生地が無駄を減らすことで、環境改善に貢献

余ってしまった生地は焼却処分してしまう事例が多いため、注文されたものを注文された分だけ生産しています。無駄なく生地を使うため、マーキング技術の向上に努めています。作る工程でも工夫することにより、環境改善につながるような取り組みは11番「住み続けられるまちづくりを」12番「つくる責任 つかう責任」にあてはまります。



### ■託児所の設置、万歩計配布で社員の健康と福祉に配慮

社員全員に万歩計を配布しているため、機械にかざすと体脂肪率などもわかるようになっており社員全員の健康管理をしています。また、無料託児所設置により、お子さんがいる社員も安心して働くことができる環境を作っています。これらはSDGsの3番「すべての人に健康と福祉を」にあてはまります。



### ■ジェンダーを意識した洋服作り

現在は男子学生服や紳士ズボンを中心に衣服を作成していますが、これからは学生服で女子のズボンを作成しており、全国の学校から注文を多数受けることが考えられます。これは5番「ジェンダー平等を実現しよう」にあてはまります。



### ■常に高品質で正確な衣服を作るために社員の教育が充実

岩手アパレルは紳士服製造技能士2級の資格取得のための費用負担と技術指導に力を入れています。また、2級の資格を取得することによりロボットを使用せず人の手の感覚で衣服を作成することができるため、製品の品質が常に良いのです。この取り組みは4番「質の高い教育をみんなに」12番「つくる責任 つかう責任」にあてはまります。



＼私たちが調査・企業訪問し作成しました／

社長さんの人柄がとても良く、SDGsについても前向きに考えてくださって、私たち自身もよい経験をさせていただきました。



年代別に音楽を流すことにより、眠気防止や作業効率の向上に向けて会社側も努力しているのがとても良いと思いました。

東北高校文理1年2組  
遠藤,菅野,瀬川,高橋愛利花,  
高橋美羽,七海,古山,宮崎

## 企業からのフィードバック

弊社の実情を的確に捉えていただき有難うございました。どの項目も普段、当然の事としてあまり意識していなかったことを再認識しました。



## 遠野の食肉事業を支え、サービス精神もある会社

### ■環境や品質への取り組み ロス削減と品質管理で環境に貢献

12 つくる責任  
つかう責任



サイズオーバーを適品にするようにしたり、一食の量を調節したり、余った細かい肉をハンバーグやメンチカツに加工したりして、フードロス削減を目指しています。

また、ラム肉の調達には安定した供給、品質、安全性の高さから主にオーストラリア産を選んでいました。ラム肉をチルドで工場から直接仕入れ、徹底的な鮮度と品質管理をすることで、店頭での販売やネット販売においても、安全かつ高品質な商品の提供を実現できています。これから、季節のメニューなどを増やして、さらにフードロス削減について取り組んで努力していくことが考えられます。このことは、SDGsの12番にあてはまっています。

### ■環境への取り組み 今後は低公害で環境に貢献



ラム肉などの輸送時、一般的なトラックでは公害が発生してしまうことが課題ですが、輸送時の低公害車への転換を提案させていただき、効率的な物流体制を作っていくことが考えられます。

このことは、SDGsの11番にあてはまっています。

### ■QSC +H 飲食店としてお客様の心の健康に貢献

3 すべての人に  
健康と福祉を



Q（クオリティ）S（サービス）C（クリーン）を心がけて、お客様のことを考えた経営をしています。さらに、QSC+H（ホスピタリティ）を加えたサービスを提案させていただき、おいしいだけでなく、楽しんだり、リラックスしたりとあらゆる角度から気持ちの良いサービスを提供することで、お客様の健康に貢献していくことが考えられます。

このことは、SDGsの3番にあてはまっています。

／ 私たちが調査・企業訪問し 作成しました ／



店長さんはとても親切で、店舗はとても大きく、座席は100席以上と大きなお店でした。メニューもとても魅力的でした。

小上がり、和室、テーブル席、テラス席の4種類あり、壁にはたくさんの著名人のサインがありました。

## 企業からのフィードバック

もう少し質問の数が多いと事業内容をより理解できたのかなと思いました。鮮度や品質低下をイメージしてしまう可能性もあるので表現を変えるとよりお店のイメージアップにもなり、より良いかと思いました。環境への取り組み等についても直接的、短期的な改善は測れないため宣言は難しいかもしれません。しかしSDGsは世界的取り組みでもありますので可能な限り流通会社と相談して改善に近づけていきたいと思いました。1回しかないヒアリングと短い時間の中、お店をここまで理解して取り組みの提案を作成できたこと、とても素晴らしくすごいことだと思いました。



## お客様だけでなく、SDGsも大切にしているトーノ精密

### ■雇用の拡大で貧困問題や経済成長に貢献！

トーノ精密では現在、技能実習生の雇用を行っています。さらに、ミャンマーへの海外拠点も設立しており、現地の人々の職業の確保につながっています。これらはSDGsの「8 働きがいも経済成長も」に当てはまります。

また、これらの事業は発展途上国の貧困問題解決へつながるためSDGs「1 貧困をなくそう」にも当てはまります。

その他に、技能実習生の学習の機会を用意することで技術力向上にも繋がり、SDGs「4 質の高い教育をみんなに」にも該当します。



### ■イベントの開催で地域活動の活性化へ！

イベントの資金を出すなどの、地元まつりの協賛をしています。地域の活性化として支援していることは、SDGsの「11 住み続けられるまちづくりを」に当てはまります。

より地域が発展していくために、地元の大大会の運営・支援が引き続き求められます。また、社員さんの声の一つに「ものづくりに興味を持つ子供たちが減少してきている」とあったので、ものづくりに興味を持ってもらえるようなイベントの開催を提案致します。



### ■廃棄物の削減で環境汚染の防止に貢献！

トーノ精密では廃棄物のリサイクルに取り組んでいます。トーノ精密で発生する廃棄物は月に2t~3tあります。しかし、廃棄するだけでは環境汚染に繋がる可能性があります。そのため廃棄物の分別により、リサイクルを推進し、廃棄物の減少・環境汚染防止に取り組んでいます。これらは、SDGsの「12 つくる責任つかう責任」「15 陸の豊かさを守ろう」に当てはまります。廃棄物の削減をするために、分別した廃棄物を、環境汚染に繋がらないようお客様と相談しながら別のものに作り変えるとよりよいと思います。その例の一つとして、アート作品等に改変するものもよいと思います。



＼私たちが調査・企業訪問し作成しました／



作業場の床を色分けすることで安全に配慮していた。

管理している場所に顔写真を貼って5Sを徹底していた

東北高等学校1年2組  
平田,内山,齊藤,菅原  
新宮鈴木,野澤,後藤

## 企業からのフィードバック

若干、本来の内容ではないところもあり、そのまま社外資料には使えない部分があります。具体的には、SDGsの中の「貧困をなくそう」「質の高い教育をみんなに」については確かにそうなのですが、実際には、弊社の人材不足によって、外の人材にも頼らないといけないのが、本当のところなんです。ものづくりを教えるイベントや、廃棄物削減やアートへの展開は良いと思います。この辺ももう少し、いい表現ができそうな気がしました。

## 遠野市盛上げ隊！富川屋！

### ■伝統文化を受け継ぐ取り組みで遠野を豊かに！

富川屋は妖怪伝承や神楽などの遠野の伝統文化を受け継ぐ活動を行っています。その一例として、他方から来た方へ、遠野の自然の豊かさや大切さをPRしそれについて考えてもらえるようなガイドを行っています。ガイドを聞く側だった人が教える側に移るなどの良い循環が生まれ、伝統文化が次の世代へと受け継がれてきました。それを継続していくことでこれからも遠野の自然や文化が永く受け継がれると考えられます。



### ■遠野が育てたプロデューサーから世界へ

富川屋はローカルプロデュースや文化プロデュース、そしてプロデューサー育成を行っています。プロデュース面では、企業の様々な課題に対し企画やデザインの視点を生かした最適なプロデュースをしたり、残すべき文化を時代に合わせた見せ方や文脈づくりを行っています。育成面では富川屋が実践で培った技術やスキルを伝え、未来の即戦力となるプロデューサーを育てています。



### ■廃棄物を商品に変える！

富川屋が開発・販売している「遠野が香るアロマスプレー Sence of Tono」には、大量廃棄されていたツルを加工したパッケージが使用されています。これはSDGsの12番「つくる責任つかう責任」に貢献していて、天然資源を効率よく使えていると言えます。このような商品をさらに増やすことで、天然資源を有効に活用することができます。



＼私たちが調査・企業訪問し作成しました／



富川屋さんのスタッフの方はフレンドリーな印象で、遠野に関してなんでも聞くことができました。また、「風に乗る、土で踊る」の通り、オフィスの中は木の良い香りがし、自然を感じさせる雰囲気でした。

SDGsをテーマに取り組んでいく中で、SDGsの重要性や富川屋さんのこれからもっと成長してやるという向上心を感じ、今回の学習だけでなく今後の進路学習にもつながっていくと思いました。

## 企業からのフィードバック

時流や社会的な必要性を感じてはいたものの、自社をSDGsの観点で見たことはなかったので、現代における社会的な役割を把握する意味でも非常に参考になりました。今後、企業活動を他社に説明する際にも必要があれば積極的に使っていきたいと思います。基本的な内容と要素をまとめてくれたので、とてもとても助かりました。一方で、伝え方や文章の書き方は、まだまだ改善の余地があると感じました。